

第 100 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

日時：2021 年 7 月 2 日（金曜日） 14 時～18 時

開催方法：Web 会議システム（WebEx）利用

【出席者（Web） 37 名】※敬称略

[理事]

柚崎 通介（会長）、岡部 繁男（副会長）、加藤 忠史（副会長）、磯村 宜和（庶務理事）、大塚 稔久（副庶務理事／大会委員会委員長）、宮川 剛（副庶務理事／将来計画委員会委員長）、上口 裕之（機関誌理事／NSR 委員会委員長）、山中 宏二（会計理事／奨励賞選考委員会委員長）、岩坪 威（理事）、大木 研一（理事）、大隅 典子（理事）、岡野 栄之（理事）、奥山 輝大（理事）、笠井 清登（理事）、北澤 茂（理事／第 43 回大会長）、木山 博資（理事）、小林 和人（理事／第 46 回大会長）、定藤 規弘（理事）、銅谷 賢治（理事／第 45 回大会長）、林（高木） 朗子（理事）、林 康紀（理事／脳科学辞典編集委員会委員長）、尾藤 晴彦（理事／第 44 回大会長／将来計画委員会 日中韓 WG 委員長）、藤山 文乃（理事）、渡辺 雅彦（理事）

[委員会委員長]

奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、尾崎 紀夫（臨床・関連学会連携委員会委員長）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、合田 裕紀子（国際連携委員会委員長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、花川 隆（倫理委員会委員長）、平井 宏和（将来計画委員会 学会体制 WG 委員長）、古屋敷 智之（神経科学ニュース編集委員会委員長）、Thomas J. McHugh（将来計画委員会 機関誌 WG 委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、吉本 潤一郎（情報基盤整備委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）

【欠席者 2 名】※敬称略

山中 章弘（広報理事）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）

【報告事項】

- 1) 磯村宜和庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった（資料 A）。会員数は減少傾向が続いていること、賛助会員が一社、退会したことなどが報告された。また、本郷事務局と NSR 編集部の人員体制についての説明があった。
- 2) 尾藤大会長より、第 44 回（2021 年）大会の準備報告が行われた。初めての Hybrid 開催に向け、virtual でのポスター発表会場などの新しい試みなども導入しながら、現地での安全・安心の確保に努めつつ、鋭意準備中である旨が報告された。
- 3) 第 45 回（2022 年）大会（Neuro2022）につき、銅谷大会長より準備状況が報告された。大会ホームページが開設されたことや、公募シンポジウムの募集を開始する予定が述べられた。
- 4) 第 46 回（2023 年）大会の準備状況が小林大会長より報告された。現在、大会テーマ、委員、プレ

ナリー演者などを検討中であるとの説明があった。秋には大会事務局の委託運営業者を選考するコンペを開催予定である旨の報告があった。

- 5) 上口編集主幹より NSR に関する報告を受けた（「NSR 委員会 報告事項」参照）。
- 6) 奨励賞選考委員会の山中宏二選考委員長より、選考結果の報告があった（「奨励賞選考委員会 報告事項」参照）。
- 7) ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞について、磯村庶務理事より報告があった（「アルトマン賞選考委員会 報告事項」参照）。

【審議事項】

- 1) 山中宏二会計理事より NSR 会計 2020 年度決算案が示され、承認された。
- 2) 引き続き山中会計理事から、継続的大会会計 2020 年度決算と 2021 年度予算が示され、承認された（資料 B, C）。
- 3) 奨励賞選考委員会の山中宏二委員長から、2022 年～2025 年の奨励賞選考委員について、規定に従い半数（4 名）の改選を行う旨の説明があった。指名委員会から推薦された上川内あづさ先生（名古屋大学）、南本敬史先生（量研機構量子医科学研究所）、北城圭一先生（生理学研究所）、勝野雅央先生（名古屋大学）の 4 名が承認された。
- 4) 柚崎会長より、第 47 回（2024 年）大会の会場と会期として、福岡国際会議場とマリノメッセ福岡（2024 年 7 月 24 日～27 日）の提案があり、承認された。また、大会長については、指名委員会と執行委員会から、岡部繫男先生（東京大学）の推薦があり、承認された。他に、日本生物学的精神医学会から合同開催の申し出があったことが紹介され、この大会を合同開催とすることを決めた。
- 5) 大会委員会の太塚稔久委員長から、教育講演ビデオのアーカイブ化についての提案があった。年次大会で行われている教育講演は大変好評であるが、プログラムの都合で見られないものもあり、終了後も見たいとの希望が増えている。講演する本人から、録画の承諾と、講演資料の著作権確認が得られればアーカイブ化をするという基本方針が承認された。期間や対象といった詳細は、引き続き大会委員会での継続審議となった。
- 6) 過去大会の抄録について、情報基盤整備委員会の吉本潤一郎委員長からアーカイブ化とその方法についての審議の発出があった。何等かの形でアーカイブ化する方針が承認されたが、その際に抄録の著作権問題に関して指摘があり、著作権の取り扱いについて法的専門家に相談しながらアーカイブ化の方法を検討することになった。
- 7) 執行委員会から、法人化に向けた会則改定案の提出があった。評議員制度の導入と、若手会員への変更手続きが盛り込まれた会則の変更案を総会に提出することが認められた。

【各委員会・WG の活動報告】

（各委員会を参照）

NSR 委員会報告事項

（前回の理事会以降の活動報告）

- ・ 理事会からの提案を受けて、NSR 論文賞新設を検討した。

- エルゼビアより副賞の財源として 1000 ユーロを確保した。
- NSR Best Paper Award、NSR Excellent Paper Award、NSR Highly Cited Paper Award の 3 種類を設けることと、それらの選考および表彰の基本方針を理事会に提案し、承認された。
- 論文賞の新設を広く周知するために、本学会会員へのメール配信、ホームページへの掲載、NSR への Editorial の掲載をおこなった。
- ・ 著者への判定通知時に、レビューアーにも判定と他のレビューアーのコメントをメールで知らせるかどうかを審議し、初回判定時のみ知らせることに決定した。
- ・ 外部レビューアー 2 名を確保するという原則について改めて確認し、編集委員に周知した。
- ・ Article-based publishing の導入可否について審議し、導入は見送ることに決定した。
- ・ Neuroscience Peer Review Consortium (NPRC) 加入を決定し、運用を開始した。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 経常的な編集関連業務を継続する。
- ・ 2022 年 1 月の NSR Best Paper Award と NSR Excellent Paper Award の選考に向けて、委員各自が候補論文を随時リストアップし、委員会内で共有する。

(特記事項)

- ・ Journal Impact Factor 2020 が 3.304 となった。今回の IF 値の上昇の一部は、in press 論文を論文数としてカウントせずに被引用数の算出対象としたことによると考えられるが、編集部が従来の方法で算出した IF 値であっても 3 を若干超えていた。来年からは in press を出版年として被引用数のカウント期間が前倒しされるため、IF 値は低下する見込み。他誌との比較で NSR の visibility を評価していく。
- ・ 会員宛てのメール配信で Journal Impact Factor の最新値を報告する。他誌の数値を引用するためにクラリベイト社に転載許諾申請中で、それが済み次第、配信する予定である。
- ・ Journal Impact Factor の算出方法の変更を受けて、ABP の導入を再検討する。

奨励賞選考委員会

審議事項：奨励賞選考委員の改選

<新委員の候補者> (2022~2025 年度) (内諾済み)

上川内 あづさ (名古屋大学・理学研究科・教授 パネル 1)

南本 敬史 (量研機構量子医科学研究所・グループリーダー パネル 2)

北城 圭一 (生理学研究所・教授 パネル 2)

勝野 雅央 (名古屋大学・医学系研究科・脳神経内科・教授 パネル 3)

結論：原案通り承認された。

アルトマン賞選考委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 2021 年度受賞者の決定。13 ヶ国 21 名から応募があり、選考の結果、以下を受賞者として決定した。

Sergiu P Pasca (Stanford University)

- ・ Shirley Bayer-Altman 先生より、2022 年度から 2026 年度まで 5 年分の運用費（賞金や経費）となる 85,000USD (5 x 17,000 USD per year)をお振込みいただいた。昨年締結された新 MOU により、2022 年度分から、事務委託費として学会に 200USD per year をいただく予定。

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- ・ 2021 年度授賞式の実施。
 - 第 44 回（2021 年神戸）大会の会期中、ハイブリッド形式で 2021 年 7 月 30 日（金）16 時 40 分～に神戸コンベンションセンター メインホールにて開催予定。
- ・ 2022 年度アルトマン賞の募集開始（2021 年 11 月 1 日～）の準備。
 - 募集案内の作成。
 - 応募サイトの構築。
 - 広報活動（世界の神経科学関連学会にホームページ掲載依頼のメールを送信）。

指名委員会

（前回の理事会以降の活動報告）

- ・ 各種財団（山田科学振興財団・持田記念学術賞・東レ科学技術研究助成）の学会推薦枠の選考を行った。
- ・ 文部科学大臣表彰科学技術省および育志賞への学会推薦枠の選考を行った。
- ・ AMED 革新脳からの依頼に基づきデータベース有識者会議への学会推薦の選考を行った。
- ・ 生理学研究所からの依頼に基づき部門別外部評価者の推薦を行った。
- ・ 日本動物学会からの依頼に基づき「茗原眞路子研究奨励助成金」および、「日本動物学会女性研究者 OM 賞」の外部審査委員の推薦を行った。
- ・ 次期アルトマン賞選考委員候補を選考し理事会に報告した。
- ・ 次期奨励賞選考委員候補を選考し理事会に報告した。
- ・ 第 47 回（2024 年）日本神経科学大会長候補について選考し執行委員会に推薦を行った。

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

引き続きダイバーシティに考慮しながら、適切な人の選考を公正に行う。

（将来的な検討課題）

- ・ 指名委員会では、奨励賞・アルトマン賞選考委員の選考に加えて、外部機関からの求めに応じて候補者の推薦を行っている。適切な人を選考し続けるためには、分野別に予め候補者のリスト作成が必要。
- ・ 各種の外部表彰への学会推薦については、上記の他に上原賞、木原記念財団学術賞、内藤記念科学振興賞などがある。これまでは学会推薦を依頼されてきた方について受動的に選考を行ってきた。しかし今後、神経科学分野を発展させていくためには、学会から候補となりうる先生方に積極的に声をかけることも必要かもしれないとの声もあり検討中である。

将来計画委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ ランチョン大討論会について

これまでランチョン討論会（今年はネット開催でランチョンの支給はないため、「公開大討論会」とする）では、隔年で交互にサイエンティフィックなトピックと、研究環境などについてのトピックを討論の対象としてきた。2020 年は、アウトリーチ委員会と連携しサイエンティフィックな内容であったため、2021 年は一般的なトピックの年となる。3 月 10 日（水）に委員会の討論会担当で会議を開催するなどし、キャリアパスに焦点をあてたトピックとすることとした。また、開催が大会最終日（CJK とポスターの日）に予定されていたが、この日は終日オンラインとなったため、日を改めて、Zoom ウェビナー/YouTube ライブで開催することとした。現状の案の詳細については別添 1 を参照。

- ・ 機関誌の今後についての検討と意見聴取

NSR の契約が 2023 年末までとなっており、機関誌 WG とともに今後についての検討を進めている。また、契約更新時に検討すべき留意点について、エルゼビアに質問をしつつ、整理している。大きく変わりつつある研究報告のあり方と将来的なジャーナルのあるべき姿、学会/学会員のメリット等を総合的に議論・考慮した上で、契約内容の改訂・交渉に臨む方向性で検討がなされている。

- ・ 委員会の開催

Zoom での委員会を開催（6 月 21 日（月）、25 日（金））。討論会、機関誌の今後、脳科連合同ジャーナルの案、学会体制 WG による会則改訂案についての意見交換を行った。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 公開討論会を準備・実施する。
- ・ 機関誌の今後についての検討を進める。
- ・ 大型研究費のあり方について検討を進める。
- ・ 各種の分野横断的イシューについての検討を進める。

将来計画委員会 機関誌 WG

(前回の理事会以降の活動報告)

The working group held a meeting (via Zoom) on June 15, 2021; below a brief summary of the issues discussed and the WG's suggestions to the JNS Board of Directors are summarized:

- ・ The WG discussed the proposal of starting an open access / soundness-based journal suggested by 日本脳科学関連学会連合 as a complement to NSR and other existing society journals. While the WG recognized potential benefits of this idea, our current contract with Elsevier for NSR contains a clause (Section 3.2) stating, “*In consideration of the Publisher’s commitments to the Society as set forth herein, the Society agrees that it will not involve itself in any other publishing activities in English that compete with or otherwise have a materially negatively impact on the Journal.*” Thus any involvement of JNS in this new journal would require legal consultation and notification and discussion with Elsevier

to ensure we do not breach the contract.

- Discussion of the points above centered around identifying the appropriate time to raise this with Elsevier, the need for more specific information on the model of the proposed journal, the possible interest of Elsevier in partnering for a new open-access journal and if this clause could be modified in future contracts.
- The WG also discussed the need to renew our current contract with Elsevier before it expires in December 2023. There is broad support for JNS to acquire 50% ownership of NSR, as it would substantially increase the annual royalties. It was noted however, that this would also make us 50% responsible for any legal costs, including brand protection, so this should be considered when planning on future budgets.
- In preparation for future contract negotiations issues to be considered are the ownership stake, the length of the contract (5 vs 10 years), any conditions that may be altered and how the changes in the publishing world the last 10 years have altered the business models.

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- Future discussions on the benefits of 50% ownership of NSR
- Look for data on open-access journals affiliated with Elsevier and collect information on other society journals
- Collect further information on the plans of 日本脳科学関連学会連合 potential journal
- Continue to generate suggestions to increase high quality submissions to NSR

将来計画委員会 学会体制 WG

(前回の理事会以降の活動報告)

1) 評議員制度の導入について検討した

一般社団法人化した際に、社員に相当する評議員（制度）を導入することを決定し、WG の提言として学会執行部に提出した。

2) 理事・会長選挙の改定案について検討した

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

理事、会長選挙について、さらに検討し学会執行部に提出する。

(特記事項)

理事会で以下の意見が出された。

- 評議員制度は、将来の学会の方向性に基づいて設計すべきである。
- 評議員は正会員に限定してはどうか。一方で若手にも参加してもらいたいとの意見もあった。
- 評議員の多様性を確保するために、ダイバーシティ対応委員会等で議論してもらいたい。
- 新パネルは今後の学会の方向性を決めるので、さらに慎重に議論重ねてもらいたい。
- 新パネルについて、会員にアンケートをとってはどうか。

大会委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ スポンサー獲得のための声掛け

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 大会のガイドライン作成のための項目整理
- 1) 会場選択のロジック・継続的戦略
 - 2) 学会主導のプログラム（特に国際連携・産学連携・基礎臨床連携など）
 - 3) 教育講演のアーカイブ化
 - 4) 日本語の講演について

国際連携委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

【1】 FENS との科学交流促進事業について

- ・ FENS 側は 2020 年度・2021 年度のトラベルアワード予算を 2022 年度へ繰越して、沖縄大会へは最大 12 名のオンサイト TA 受賞者の旅費をサポートすることで双方合意を得た
- ・ JNS 側の 2020 年度 TA 受賞者 3 名は 2022 年 FENS パリ大会へ参加予定（TA 費用は 2020 年度予算へ計上済み）
- ・ 2021 年度 Cajal Training Program へ以下 2 名を選出
 - Joshua Olorcismo、NAIST、“Optogenetics, chemogenetics and biosensors”
 - Chijung Hung、名古屋大学、“Bioenergetics for Brain Function”（延期 → 2022 年に開催）

【2】 SfN とのトラベルアワードについて

- ・ 従来通りのトラベルアワードを双方で実施するが、バーチャル形式の大会も考慮して通常枠 5 名より増員も可とし、増員分の参加費は送る側が負担することとなった

【3】 2021 年中国神経科学学会年次大会トラベルアワードについて

- ・ 以下 3 名を選出
 - Yao Zhiwei、同志社大学
 - 中川 直、鹿児島大学
 - 院田 雅裕、慶應義塾大学

【4】 SfN 各種アワードの募集について JNS 会員へ周知 （3 月 30 日付）

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 引き続き各種トラベルアワードの選考も含めて国際連携の促進を図る
- ・ 各種トラベルアワード cost/benefit の評価についての議論を進める

(特記事項)

沖縄大会の TA 受賞者枠を可能な範囲で増加することをお認めいただいていたものの、改めてご承認いただいた。

情報基盤整備委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 05/01 SE 松本様との業務委託契約を 1 年間更新
 - 業務内容を「ホームページの管理・運用およびコンテンツ更新作業」のみに絞る
 - 月額: 9 万円 (年間: 108 万円)
- ・ 05/30 情報基盤整備委員会・オンライン開催
 - 会員情報管理システムの現状について
 - 全国大会抄録のアーカイブ化について (審議事項参照)
- ・ 06/10 ホームページ委員会・オンライン出席 (委員長のみ)
 - 新企画 (日本神経科学研究室マップ作成) の実装方法について

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 全国大会抄録アーカイブ化の方針決定
- ・ BrainDevelopmentMaps.org (Altman & Bayer 氏のデータベース) の引継ぎについて交渉を進める

ニュース編集委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 2021 年 2 号 (4 月号) の原稿を予定通り収集・校了し、4 月 10 日に発行した (別添 1)。
- ・ 2021 年 3 号 (7 月号) の原稿を予定通り収集・校了し、7 月 10 日に発行する予定である (別添 2)。
- ・ 2021 年 4 号 (11 月号) のコンテンツを決め、執筆者に原稿を依頼した (別添 3)。
- ・ 前回の理事会・拡大執行委員会 (2021 年 2 月 21 日) での決定を受け、冊子体は 2021 年 4 号 (11 月号) までとし、2022 年 1 号から冊子体を廃止することとなった。
- ・ 冊子体の廃止に関する報告を 2021 年 3 号に掲載することとなった (別添 4)。
- ・ 冊子体の廃止に伴い、神経科学ニュースの今後の在り方を議論した (別添 5)。
- ・ 冊子体の廃止に伴う広告の代替案を検討し、神経科学ニュースの目次のメール配信に掲載するバナー広告を提案し、執行委員会 (2021 年 5 月 11 日) で承認された。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 最大ページ数に配慮して、各委員が担当号の原稿を収集し、校正を全委員で分担して行う。
- ・ 神経科学ニュースの今後の在り方を引き続き検討する。

(特記事項)

- ・ 報告事項に記載のない追加の活動報告として、2022 年 No.1 (2 月号) から脳科学辞典の新規項目の

紹介を定期的に掲載する予定である。

ホームページ委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 神経科学トピックス記事査読作業 (9件)
- ・ 神経科学トピックス記事 HP 公開 (7件; 別添資料1 参照)
- ・ 委員会メンバーによる SNS 書き込み (神経科学トピックス図および関連 URL 配信)
- ・ ホームページ委員会オンライン会議開催
(4/12 開催; 参加者-HP 委員会委員、事務局)
- ・ ホームページ委員会新規立ち上げ企画に関するオンライン会議開催
(6/17 開催; 参加者-吉本潤一郎情報基盤整備委員会委員長、古屋敷智之ニュース編集委員会委員長、山中章弘広報理事、掛川渉 HP 委員会委員長、川口真也 HP 委員会委員、事務局)

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 立ち上げ企画 (日本神経科学研究マップ) の具体化
- ・ 神経科学トピックス記事査読作業
- ・ 神経科学トピックス記事 HP 公開
- ・ 委員会メンバーによる SNS 書き込み

アウトリーチ委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 2021 年度 市民公開講座「脳科学の達人 2021 脳と心の病に切り込む最前線!」の準備
 - 開催形式、プレゼンター、ファシリテータの決定
 - ブレインビー委員会と連携して脳科学オリンピック予選参加者の招待を決定
 - 事前説明会実施 (6/17 (木))
- ・ 第44回日本神経科学大会のプレスリリース準備

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 2021 年度 市民公開講座「脳科学の達人 2021 脳と心の病に切り込む最前線!」の宣伝・開催
- ・ 神経科学を志す高校生の進学先となりうる大学の神経科学関連研究室の宣伝促進
ホームページ委員会との連携による

産学連携推進委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 応用脳科学コンソーシアム 2021 年度キックオフシンポジウム (6月8日 (火) オンライン開催の日本神経科学学会として後援)
- ・ キャリアパスについての討論会を将来計画委員会との合同で企画、準備中
 - 当委員会からは近添淳一 (ARAYA/生理研)、藤井直敬 (ハコスコ) を講師に選定・受諾取得

- 第2部としてオンライン交流会を企画

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ キャリアパスについての討論会および交流会を将来計画委員会との合同で開催

アドボカシー委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 関連省庁、ファンディングエージェンシー (AMED、JST) 等と意見交換を実施

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 関連学協会との連携
 - 日本脳科学関連学会連合との連携について議論している。
 - 日本学術会議の関連委員会との連携について検討している。

利益相反委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 前回開催時より、COI 委員会で検討が必要な案件がでていないので、特段議論は進めていない。

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 審議事項が発生した時に対応を行う。

脳科学辞典委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 計算論的神経科学分野の用語、110 個ほどを挙げ、半数程度に著者候補を選定した。殆どの候補から受諾の返事を頂いている。
- ・ 東京大学出版と 700 項目ほどの完成された項目について抄録のみを辞典として出版する計画が進んでいる。印税は学会収入となる。執筆用の Web 上のシステムを東京大学出版の方で作ってくれたので、それを活用して進めていく。しかし 300 項目ほどは、著者が引き受けたものの、執筆しなかったり、途中となっている。中には重要な用語もあり、どうするか決定する必要がある。編集長も催促業務には時間を掛けられない。

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 計算論的神経科学分野の用語が届き出すため、それを完成させていく。
- ・ 書籍化の作業を進めていく。
- ・ T 先生のところで止まっている「認知・システム・回路」、Y 先生のところで止まっている「細胞・シナプス・分子」を何とかする。

臨床・関連学会連携委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

本年度の活動：他学会との連携シンポジウム

- ・ NPBPPP2020 (日本生物学的精神医学・日本神経精神薬理学会・日本精神薬学会合同大会) における Schahram Akbarian 先生(Mount Sinai)講演後の若手との Free Discussion 枠(Facilitator 加藤忠史が日本神経科学学会から参加)を日本神経科学学会との連携枠とした。
- ・ 2021 年日本神経学会学術大会での連携シンポジウムに関し、高橋大会長とご相談し、望月・勝野が以下の企画を立案した。

日時：2021 年 5 月 20 日(木) 16:15～18:15

セッションタイトル：「基礎～臨床、学会横断シンポジウム」基礎の学会では今何が熱いか？

- ・ 学術会議脳とこころ分科会公開シンポジウム
 - 1 日目 6 月 20 日 (日曜日) 13:30～17:00
 - ーシンポジウム 1：コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療
 - 2 日目 6 月 27 日 (日曜日) 13:30～17:00
 - ーシンポジウム 2：コロナ禍における脳科学と人工知能

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 2021 年日本神経科学大会での精神神経学会との連携シンポジウムに関し、尾藤大会長とご相談し、尾崎は臨床・関連学会連携委員会委員長として、以下の企画を立案した。
 - ・ シンポジウムテーマ (仮題)：Patient Public Involvement in Psychiatric Research
 - ・ 司会
 - 橋本亮太先生：臨床・関連学会連携委員会委員
 - 和氣 弘明先生：臨床・関連学会連携委員会委員
 - ・ 演者
 - 1) 夏莉郁子先生：当事者・家族の立場
 - 2) 尾崎紀夫：臨床研究者の立場
 - 3) 大隅典子先生：基礎研究者の立場
 - 4) 林 (高木) 朗子先生：基礎研究者の立場
- ・ 次年度も引き続き、臨床・関連学会における連携企画を検討予定。

ダイバーシティ対応委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 男女共同参画学協会連絡会の提言・要望書 WG から依頼があり 「第 6 次科学技術・イノベーション基本計画素案」へのパブコメを委員会審議したのちに提出した。
- ・ 男女共同参画学協会連絡会第 19 期第 2 回 (2021 年 3 月 23 日 zoom 開催) に参加した (富永委員)。
- ・ 日本神経科学会は、SfN Global Connectome2021 にあわせた launch event である ALBA Declaration on Equity an Inclusion の支持をおこなった (1 月、前回理事会報告済み)。これを受け、2 月 20 日に日本神経科学会は ALBA network の partner として支持を表明した。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 第 44 回大会でのランチョンシンポジウム(上川内・竹内委員企画、隠岐さや香先生ご講演)
- ・ 年次大会実行委員会からの諮問があれば答申(託児室、女性比率問題等)
- ・ 男女共同参画学協会連絡会参加(年 3 回; 12 月、3 月、8 月)
- ・ 男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加・活動報告書提出(年 1 回 秋)

倫理委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 倫理委員会として担当しうる範囲について資料をまとめた。
- ・ 当面、倫理委員会として担当すべき範囲についてメール審議を行った

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に対応し、「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の文言を改訂する。

(特記事項)

- ・ 次回学会以降の演題登録システムに、倫理的な配慮についての設問等が適切に設定されているか、倫理委員会の立場から確認する機会を設けていただきたい。

動物実験委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

【「霊長類を対象とする実験ガイドライン」について】

- ・ ガイドラインを一部改訂し、委員会および理事会の承認を得た
- ・ 2021 年 4 月に神経科学学会のホームページ上に
ガイドライン(日本語版)改訂版を Web 掲載
同時にガイドライン(英語版)を掲載

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 「霊長類を対象とする実験ガイドライン」のフォロー
- ・ 動連協/国動協/実験動物学会など、他団体との情報交換

ブレインビー委員会

(前回の理事会以降の活動報告)

- ・ 第 8 回脳科学オリンピックは、下記の様に実施する

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- ・ 実施時期：試験実施期間は夏休みの 7 月 23 日から 8 月 7 日までの 16 日間(うち 5 日が土日)

Covid-19 の影響で、各種資格試験が一齐に C B T 方式に変更になり、また部屋の定員を制限しているため、休日はどの会場も大変予約がとりにくい状況。さらに営業時間が短縮している。また高校生が受験可能な平日夕方~夜は、会場はパソコン教室で利用されており、特に土日の予約は取れにくい。そのため、高校生が平日、休日の昼間に受験できる夏休み期間を実施期間とする。

・ **C B T 実施業者**

C B T－S 社を選定した（CBT 実施予算としては 80 万円強を想定している。）

・ **参加費：**

今年は一人 1100 円（税込み）徴収する。ただし次年度は人数が増えたと、2000~2500 円程度にする必要がある（3000 円を超える金額にはしない）。

次年度以降、従前の対面方式に戻す場合には、参加費も無料にする。

・ **申し込み受付：**7 月はじめから、C B T－S 社の H P 内で行う。申込時の決済はコンビニ決済のみとする。カードを持たない高校生も利用可能。

・ **神経科学学会年大会との連携：**

期間中神経科学学会大会があるので、一般公開イベント（脳科学の達人（7 月 24 日））には積極的に参加を促がし、宣伝面のシナジー効果を狙う。

他に何らかの、参加者連携イベントを期間中に実施できないか？検討中

今年の表彰式は、神経科学大会会期中には行えない（他学会で行えないか？）

学会への招待は、次年度にするか、希望者全員を呼べるかは、今後の検討課題。

その他

- ・ カンニング対策は、試験監督がつき、本人確認も各会場で行ってもらう（料金に込み）
- ・ 問題は（54 問）とし、70 問程度からシャフルしながら、1 問 1 分以内
 - 出題形式はマルチプルチョイス、54 問を 60 分で行う。（6 月上旬に初稿入稿済み）
- ・ 結果は、当日中（帰宅時）に正答率のみをフィードバックし、8 月中旬に予選通過者を発表する。
 - 決勝大会（上位数名）は極力対面で、全国 2～3 会場同時開催を検討
- ・ 本大会(Japan final) はできれば 8 月中旬に実施。世界大会は 11 月末。

====

テスト終了後に、解説講義をあげるかどうかは、検討課題

今後の宣伝：H P は脳科連と脳の世紀 H P のうち、早く載せられる方に早急に載せたうえで、

徐々に脳科連を主とする。ビラは、全国の高校に直接送付

生物科学連合担当委員会

（前回の理事会以降の活動報告）

- ・ 5 月 27 日（木曜日） 第 23 回 生物科学連合 定例会議参加した。令和 2 年度の事業報告、会計報告、令和 3 年度の予算、事業計画等が承認された。
- ・ 令和 3 年度からは、当学会は 生科連の研究費・人材育成委員会(井関祥子委員長) に入ることを希望し、承認された。
- ・ 生科連で配布された DORA 宣言の資料を柚崎会長、宮川先生、磯村先生に提供 （配布資料）
- ・ 生科連からのサポートレター（賛同書、意見書）発出の申し合わせ案が承認された。発出には加盟

学会の 2/3 の賛同が必要。レターには加盟学会の意見も付記する（生科連 定例会資料参照）

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- ・ 研究費・人材育成委員会として研究の多様性を維持するための方策について、加盟学会へのアンケート調査等に基づいた解析をもとに意見書・要望書を作成し、関係省庁に提出する活動を進める。

以上

資料 A

日本神経科学学会会員構成

2021年7月1日現在

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア会員
分子・細胞神経科学	1,952	244	87	15	282	6	41
システム神経科学	1,403	179	73	9	233	9	56
臨床・病態神経科学	600	33	30	4	55	2	12
その他の神経科学	265	31	17	1	120	1	0
パネル不明	21	8	0	0	2	0	0
Total	4,241	495	207	29	692	18	109
名誉会員	18						
賛助会員 (1口10万円) ※	7						
全会員数	5,816						

※成茂科学 5口、他6社はそれぞれ1口

資料 B

日本神経科学大会（継続的大会）2020年度（2020年4月から2021年3月まで）決算

科 目	2020年度決算
収入	
年次大会経費から繰り入れ	
第43回（2020年）大会準備金貸付金返還	500,000
第43回（2020年）大会からの繰入金 （事務室賃借料、事務委託費、システム委託費）	14,397,282
第43回（2020年）大会税金および手数料準備金	1,000,000
利息	
	259
収入合計	15,897,541
支出	
大会準備貸付金	
第45回（2022年）大会準備金	2,000,000
第44回（2021年）大会準備金 追加分	1,500,000
事務室賃借料	
事務室賃借料、通信・光熱費、事務機器使用料 （2020年4月-2021年3月）	1,936,680
事務委託費	
事務委託費（2020年4月-2021年3月）	2,230,553
システム委託費	
システム委託費（2020年4月-2021年3月）	1,944,000
税金	
第43回（2020年）大会 （2020年1月-2020年12月法人税 + 消費税）	1,102,402
納税手数料	
決算書・税務申告書作成手数料* （2020年1月-2020年12月 後藤由紀税務会計事務所）	269,433
交通費	
旅費交通費（事務局経費）	74,727
郵送料	
郵送料（事務局経費）	7,400
雑支出	
大会参加登録費課金システム維持費	16,500
個人情報保護方針、著作権規程、利用規約等作成費用	349,265
大会アンケート関係費（粗品代、集計作業費）	0
振込手数料	8,030
その他	0
支出合計	11,438,990
収支差額 収入合計-支出合計	4,458,551
(A) 前期からの繰越額	34,805,408
(B) 2021年3月31日時点残高	39,533,392
(C) 未払い金調整額（*印額）	269,433
(D) 次期への繰越額（B - C）	39,263,959
(E) 繰越金増減額（D - A）	4,458,551

資料 C

日本神経科学大会（継続的大会）2021年度（2021年4月から2022年3月まで）予算

科 目	2021年度予算
収入	
年次大会経費から繰り入れ	
第44回（2021年）大会準備金貸付金返還	2,000,000
第44回（2021年）大会からの繰入金 （事務室賃借料、事務委託費、システム委託費）	4,000,000
第44回（2021年）大会税金および手数料準備金	1,000,000
利息	
	500
収入合計	7,000,500
支出	
大会準備貸付金	
第46回（2023年）大会準備金	500,000
事務室賃借料	
事務室賃借料、通信・光熱費、事務機器使用料 （2021年4月-2022年3月）	1,936,680
事務委託費	
事務委託費（2021年4月-2022年3月）	2,000,000
システム委託費	
システム委託費（2021年4月-2022年3月）	0
税金	
第44回（2021年）大会 （2021年1月-2021年12月 法人税 + 消費税）	1,000,000
納税手数料	
決算書・税務申告書作成手数料 （2021年1月-2021年12月 後藤由紀税務会計事務所）	300,000
交通費	
旅費交通費（事務局経費）	600,000
郵送料	
郵送料（事務局経費）	20,000
雑支出	
大会参加登録費課金システム維持費	0
JNS Meeting PlannerのJ-STAGE引越し費用	1,000,000
大会アンケート関係費（粗品代、集計作業費）	100,000
振込手数料	5,000
その他	50,000
支出合計	7,511,680
収支差額 収入合計-支出合計	-511,180
前期からの繰越額	34,805,408
次期への繰越額	34,294,228